

2025 年度 第 1 四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

Q1) 第 1 四半期の営業利益について、計画から増益となった要因を教えてください。

- A1) ・ 第 1 四半期の営業利益は、計画から +60 億円上回りました。そのうち +55 億円は為替や燃料の市況要因によるものと分析しています。
- ・ また、整備機会の減少による整備費の減少も一因です。今後も整備費の動向を注視し、コストマネジメントを徹底していきます。

Q2) 旅客事業について、第 1 四半期の実績と第 2 四半期の見通しを教えてください。

A2) [国際旅客]

- ・ 第 1 四半期は、北米＝アジア・中国の他社直行便の増加によって、当社の三国流動の需要は弱含みましたが、訪日と日本発の旅客数は堅調に増加しました。
- ・ 単価面では、他社供給量の増加による競争激化や、為替の影響により、イールドが前年を下回って推移しました。
- ・ 第 2 四半期は、インバウンドを中心に、早期に二国間需要を確実に取り込むことで、旅客数・単価の両面で改善を図り、全体収入を最大化していきます。

[国内旅客]

- ・ 第 1 四半期は、レジャー需要を喚起するためのセールを行った一方、運賃値上げやイールドマネジメントの徹底を実施したことと、単価は前年から上昇しました。
- ・ レジャー需要はコロナ前水準まで回復し、ビジネス需要も緩やかに回復しており、この基調は第 2 四半期も継続する見込みです。

Q3) 貨物事業に関して、米国関税政策の影響はありますか？

- A3) ・ 第 1 四半期において、国際貨物の売上全体としては大きな影響は発生していません。中国発北米向けの貨物需要は減少しましたが、旺盛なアジア発北米向けの貨物を取り込み、関税政策による影響を最小限にとどめました。
- ・ 今後も、物流サプライチェーンの変化や各国の動向を注視しながら、柔軟かつ機動的に対応していきます。

Q4) 第 2 四半期の営業利益の見通しについて教えてください。

- A4) ・ 現時点では、第 2 四半期の営業利益の水準は概ね計画に沿って進捗すると想定しています。
- ・ 国際線（旅客・貨物）では、単価の向上にやや苦戦していますが、旅客数・貨物重量は計画を上回って推移しています。
- ・ 為替や燃料の市況が計画を下回って推移しているため、引き続き収支へのポジティブな影響が見込まれます。

Q5) 日本貨物航空（NCA）の完全子会社化について、今後の動きを教えてください。

- A5) ・必要なすべての国の関係当局から認可が得られたため、2025年8月1日に予定通りクロージングする予定です。第2四半期から、NCA社の貸借対照表と損益計算書を連結する予定です。
- ・当社が持つ日本最大の国際旅客便ネットワークと、NCA社の大型貨物機のネットワークを統合し、シナジーを最大限に生み出せるよう、クロージング後にNCA社と具体的な協議を進めていきます。

以上